立憲民主党
The Constitutional Democratic Party of Japan
号外
令和2年 10月 発行
地域版（中川区）
立憲民主編集部
〒102-0093　東京都千代田区
平河町 2-12-4 ふじビル３F
TEL 03-6811-2301

久野美穂 ネットワーク通信

名古屋市会議員

〒454-0835 名古屋市中川区八家町 3-16　TEL 052-364-8812　https://kunomiho.com
発行：久の美穂を支える会、名古屋民主市会議員団

少人数学級を増やせ

全国に先駆けた施策「コロナ禍の今こそ」

11年間なぜか放置 他都市は次々拡充

新型コロナ禍の中、国は少人数学級導入の姿勢を明確にしました。学校の先生方は、授業の遅れ、コロナ禍、オンライン学習など様々な対策に追われています。学校の中心はクラスです。今こそ、先生の目が行き届き、安心安全で快適な居場所となる少人数学級の拡大が、絶対に必要です。

少人数学級について、久野美穂は9月市議会本会議で質問に立ちました＝写真＝。

名古屋市が少人数学級を導入したのは、18年前の平成14年です。小学校1年生のクラスを30人にしました。全国に先駆けた画期的な施策でした。

18年たった今、少人数学級はどうなっているのか。この間の取り組みと実績を、市側に尋ねました。

市は「19年度に小学2年生を30人学級に、21年度には中学1年生を35人学級にし、一定の成果を上げた」と答弁しました。

しかし、その後11年間（22年度以降）、少人数学級は他の学年に、全く拡大されていません。

他都市はどうなのか。横浜、神戸、京都、広島では小学校のほぼ全学年に拡大。新潟、千葉、静岡、浜松などは小・中学校の全学年で導入しています。

名古屋市より遅れて取り組んだ他都市は、着々と少人数学級を拡大しています。なのに、名古屋市が11年間も放置してきたのは、なぜなのか。

市は「その他の学年については、少人数による柔軟な学習集団を編成し、指導を行っています」、更に「29、30年度の調査で、少人数学級は学習面でそれほど効果はなかった」とも述べました。

多くの都市が少人数学級拡大に努力しているのに、名古屋市は小学1、2年生と中学1年生以外の学年に、積極的に広げていくという明確な答弁がありません。

「学級編成や教え方を工夫して努力している」と淡々と述べる。だから、少人数学級は急ぐ必要がないのか。

ごく少数の児童のデータを2回とっただけで、「学習効果は見られない」と結論づけるのは、あまりに早急ではないのか。

財源不足の壁を他都市は越えた

現実を見れば、少人数学級を拡大するためには、先生も教室も足りない、財源不足の壁があります。

他都市も同じ条件だったはずです。それでも、壁を乗り越える強い意志と知恵があったからこそ、他都市は実現できたのではないでしょうか。

「教育先進都市・名古屋」は久野美穂の願いであり信念です。

18年前、全国に先駆け少人数学級を導入した名古屋市は、今こそ拡大に向けて特段の努力をするべきだと強く思います。

地域の願い 市に提案 その後どうなった

戸田地区に危険な生活道路

中川区戸田地区に危険な生活道路があります。雨の日などとても怖い思いをしたと、地域の方々からお聞きし、久野美穂は昨年6月の市議会本会議で、危険排除のために3つの提案をいたしました。

その後も、地元の方々と何度も話し合い、ご一緒に警察署へ陳情にも行きました。その結果、ようやく市は今年8月、横断歩道を設けました＝写真下＝。

この横断歩道ができたことで、ドライバーの注意力も高まり、安心して横断できるようになりました。

横断歩道を設置 地域の方々から感謝のメール

地域の方々から感謝のメールをいただきました。

70代男性は「通勤で春田駅まで行きます。朝夕交通量が激しくて、横断歩道が出来てホント助かっています」。

10代女性からは「通学路として使っています。車も横断歩道があると止まってくれます。安全に渡れるので嬉しいです」。

メールを読み、市議のやりがいを実感しています。ありがとうございました。

松葉公園 駐車場が足りない

臨時駐車場 10～15台)完成 ご利用を

「松葉公園の駐車場が足りなくて困っている」。利用者からお聞きし調べると、大変な無駄があることが分かったのは、昨年1月のことです。

フェンスに囲まれた中川土木事務所の分所は倉庫と化し、目の前には枯れ木置き場。「一等地の松葉公園にこんな無駄があっていいのか」。

久野美穂は昨年6月、初めての市会本会議質問で追求しました。

市は分所の解体と、枯れ木置き場を臨時駐車場にすることを約束。あれから1年。10～15台の車が利用できる臨時駐車場に完成しました。

臨時駐車場は、テニスコートか野球場（有料公園施設）の利用者専用です。手前の専用駐車場が満車の時にご利用ください。詳しくは、中川土木事務所にお問い合わせを。

中川土木事務所の分所は今後、跡地利用について、地元と話し合いを進めます。分所撤去・跡地整備工事は来年10月に着工する予定です。

久の美穂を支える会　会員募集

入会のお申し込み・お問い合わせは下記へ

ホームページをご覧いただけます

郵便：〒454-0835 名古屋市中川区八家町 3-16
電話：052-364-8812　ファックス：052-354-0031
ホームページ：https://kunomiho.com

市営住宅1割が空き部屋

ご存じですか その数7800戸

なのに「単身者」倍率13.5倍

無抽選 空き部屋 「家庭向け」を転用検討

ご存じですか？ 名古屋市の市営住宅の1割以上が空き部屋ということを…。市営住宅の数は約6万戸。そのうち空き部屋が7千8百戸、27年間空いている物件もあるんです。

地域の方々から、「市営住宅になんとか入れないか」というご相談をよく頂きます。依頼する方の多くが高齢の単身者です。民間アパートに入居しにくい高齢者の頼みは、市営住宅しかありません。しかし、何年も応募しているのに、落選が続く人たちがおられる。

市営住宅の募集は年4回行われ、昨年度の応募倍率は平均で、単身者向けが13・5倍、家族向けは4・9倍。また、昨年度第1回目の募集では、応募した65歳以上の単身者は名古屋市で1千名以上もおられます。

暮らしに便利な地域の市営住宅は、倍率が高くなる。では、住宅で無抽選（先着順）の空き部屋はないのか。

募集一覧表を調べると、ありました。しかし、ほとんどが二人以上の家族向けの部屋ばかり。市に理由を聞くと、「部屋の広さが55㎡以上なので単身者は対象外」ということなんです。

市営住宅に入りたい多くの人がいる。空き部屋は7千8百戸もある。なのに単身者用の部屋は少ない。これ、おかしくないですか。

部屋の大きさで線引きするよりも、入りたい人に入ってもらう。規則にこだわらず、まずは13・5倍もの応募がある高齢単身者を積極的に入居させることが、市有財産の有効活用につながるはずです。

久野美穂は6月市議会本会議で、市の姿勢と今後の方針を問い質しました。市は「無抽選で入れる空き部屋で、55㎡を超える部屋について、家族向けにこだわらず、単身者にも活用する↘

「市営住宅を核に」ニュータウン構想

その際、必要な観点は市営住宅を中心とした一大ニュータウン、コミュニティを創るという観点です。市営住宅が地域作り、地域起こしの中心になる。そんな構想が是非とも必要ではないでしょうか。

市営住宅が地域作り、地域起こしの中心になる…。久野美穂が提案する一大ニュータウン構想は、夢物語ではありません。

名古屋市はすでに実現しています。それは千種区自由が丘にあります。30年前は低層階の古い市営住宅が↖る方向で検討していきます。中川区の万場荘と松下荘についても検討していきます」と回答しました。

無抽選の多い住宅は、近くに駅もスーパーもない。不便だから入居者が少ない。ならば、現状を解決し、暮らしやすい市営住宅にしていくのが行政の役割です。

ズラリと並んでいました。当時、建て替えには地域に強い反対意見がありました。

でも、行政の丹念な説得によって、今では太陽光を十分採り入れた明るい市営住宅に生まれ変わりました。周囲には大きな会館やスーパー、老人施設と保育園、地下鉄も通っている。病院や医院も建つ一大ニュータウンに再生しました。

市営住宅は名古屋市の貴重な財産です。まずは、応募者が少ない住宅の欠陥や悪条件を改めていく努力が第一です。そして、千種区自由が丘のように将来を見据えた計画のもと、誰もが住みたくなる街に変えていくことが是非とも必要です。

新型コロナ禍で失業し、市営住宅を望む方々が今後、急増するかもしれません。市営住宅の欠陥や悪条件を改めることに、時間をかける余裕はありません。

入居希望者が少ない中川区の万場荘【写真上】と松下荘

中川区の万場荘と松下荘 少ない応募、古さも原因

中川区に、万場荘と松下荘という市営住宅があります。空き部屋の数は万場荘（全774戸）は60戸、松下荘（全869戸）は109戸もあります。市の入居者募集のチラシを読みました。「名二環完成でさらに便利に」「庄内川を望むリバーサイドタウン」。素晴らしい。でも、実際は入居希望者が少ない。

なぜなのか？人気のない理由は様々ありますが、一つに設備の古さがあります。例えば、風呂場はあるが風呂釜も湯舟もない。お風呂は入居者が取り付けて下さいね…。これ、お風呂と言えますか。令和の時代に「住む場所さえ提供すれば良い」という昭和の考え方を引きずってはいけません。

本当におかしいし、不親切です。

中川区役所に苦情目安箱

「高齢者施設で死ぬところだった…」

超高齢化社会の日本。周りにもお年寄りが増えたなあと実感すると同時に、介護・福祉の大切さを改めて思います。

それというのも、ある方から「うちの主人はもう少しで死ぬところだったのよ」と訴えられたからです。

どういうことなのか。お話を聞くと、ある老人施設に入ったら、食事も満足にとらしてくれない。着替えやオシメ替え、お風呂なども要求するまでしてくれない。娘さんは介護疲れで倒れてしまい、ご主人も日に日に弱っていった。

施設からの請求書や役所からの医療通知を見たら、一度も受けていないサービスや診察費が書かれてある。抗議をすると、「間違っていました」と誤りをあっさり認めたそうです。

今は別の施設に移りましたが、「こんなひどい施設の現状をどこに訴えたらいいのか」と相談されました。

福祉施設や介護施設には、とんでもない施設があります。先日の中日新聞にも、利益優先でモラルの低い民間施設が相次ぎ、氷山の一角とも書かれていました。

介護保険制度が一部の業者によって壊されしまうことは、絶対に許せません。

久野美穂は6月市議会本会議で、市は介護サービス向上のため何をしてきたのか。不正を排除するために、今後どういう対策をするのか問い質しました。

市は「事業所には年1、2回集団指導をし、特別養護老人ホームなど施設サービスや訪問介護など居宅サービスは、個別に実地指導を行っています。今後は、医療知識のある理学療法士や保健師の活用を考えています」と答えました。

私は実家の親が入院した際、手助けになればと介護ヘルパーの資格を取りました。その実技研修での経験から、介護の現場は本当に大変だと実感しました。

現場で働く人、福祉に貢献している人の努力を無駄にしてはいけません。それに加えて、今は新型コロナ感染予防のため、施設で働く方々や利用者は、大変なご苦労を強いられています。

残念ながら、市の対策は事業者ばかりに目が向いています。それだけでは十分ではありません。介護の現場で働く方や利用者の不満や意見を、広く聞くこともとても重要です。

そのためには施設に遠慮しなくても済むよう、例えば、誰でも利用できる区役所に、思いや意見を投書できる目安箱のようなものを置くことはできないかと、市に提案しました。

市は「目安箱設置について有効な手段と考えます。また、利用者への書類にチラシ等で相談先の電話番号を明記するなど努めていきます」と回答。

久野美穂の提案を積極的に採り入れ、この8月に中川区役所に目安箱が設置されました。

久野美穂が提案

中川区役所に設置された目安箱